

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490100312		
法人名	ひまわり株式会社		
事業所名	グループホームひまわり		
所在地	大分市花津留1丁目12番31号		
自己評価作成日	令和3年1月29日	評価結果市町村受理日	令和3年4月26日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/44/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=4490100312-00&PrefCd=44&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人第三者評価機構
所在地	大分市上田町三丁目3番4-110号 チュリス古国府春番館 1F
訪問調査日	令和3年3月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所では、日々変化のある生活を利用者に楽しんで頂くために、毎月の誕生会や四季折々のイベントを計画し、気分転換ができるよう工夫を凝らしている。利用者の健康管理に於いては、毎週1回の訪問看護・毎月2回の訪問診療で、医療機関との連携を図り、急変時には、すぐに対応できる体制をとっている。又、食事は全食手作りとし利用者の嗜好や希望を反映している。さらに自立支援の一環とし、毎日の生活の中にリハビリの時間を設け、心身の向上に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

家庭的な雰囲気のもと、利用者に明るい笑顔で「安心、安全」にそして楽しく暮らし続ける事が出来るように取り組まれています。食事は、フロア内にある台所で全食手作りしており、五感を大切にしながら出来たての美味しい料理の提供に取り組まれています。「食べる事は健康につながる」を実践し、その結果が健康診断にも反映されています。コロナ禍で、面会や外出等外部との関わりが制限される中、体操や歌・壁画の作成等室内でも生き生きと過ごせるよう工夫されています。ネット環境の強化、Wi-Fiの設置も管理者は考えており、環境が整うまでには時間が必要のようですが、実現に向け立ち止まることなく積極的に取り組まれています。生活全般にわたる(身体的・精神的・社会的自立)、心身の状況に応じた支援にも努めています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安心」「安全」「誠実」「貢献」を基本理念とし、各職員に対しても機会あるごとに事業所理念の周知を図っている。又、職員は基本理念に基づき、誠実なケアを心がけている。	月1回の全体会議の際、職員全員で基本理念を唱和しています。職員も基本理念を周知しており、理念に基づいた支援を職員一同で実践に繋げるように取り組まれています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の自治会委員や児童民生委員の方に機会毎に活動状況の説明や施設見学を行ったり、子供御興の際、飲み物を配ったりし、地域との連携を推進している。	例年であれば、地域主催の夏祭りや施設主催の行事へ招待し、交流を深めていたがコロナ禍の為実施は出来ていませんが、地域との交流が途切れないように情報発信に努めています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のサロン開催時に、当施設の取り組みや、認知症の人への理解や支援の方法を説明している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回の割合で会議を行政、地域包括センター及び自治会員、児童民生委員参加のもと開催している。又、運営委員から頂いた意見や要望を反映できるよう協議し、職員の資質向上に努めている。	2ヶ月に1回、運営推進会議を行っています。内容も色々工夫し最近「看取りについて」の意見交換を行い、参加された方からも「良い勉強になった」と、高い評価を頂いており、マンネリ化しない会議へ取り組まれています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	担当課(市)の長寿福祉課とは、随時連絡をとり、指導・助言を求め適切な介護サービスの提供に努めている。	市の担当者の方とは、疑問等あればすぐに相談し、指導・アドバイス等を頂き介護サービスの提供がスムーズに行えるよう取り組まれています。行政機関との協力体制へのさらなる構築に努めています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修会を開催し、職員に対して周知を図っている。又、利用者の身体機能の低下が進む中、拘束をしないためにはどのような介護が必要か協議しながら、随時取り組みを行っている。	年2回、全体会議で身体拘束・虐待防止関連についての研修会を行っています。職員間で、目の離せない利用者の方の支援内容等話し合いながら、身体拘束をしない支援への取り組みに努めています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会等で虐待防止について学習している。虐待防止だけではなく、利用者による暴力等の対応についても、随時検討協議を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	新規採用者に対しては、採用時オリエンテーションの中で利用者の尊厳を含め指導を行っている。又、その他の職員についても内部研修で周知を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居する際に、事前に説明し理解を頂いて上に利用契約書を締結し、重要事項説明書を基に説明を行い、理解を求めている。又、解約時においても具体的に説明を行い、ご理解頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者のご家族面会時に、近況報告を行う中で、ご意見やご要望を随時伺っている。又、家族会開催時にもご意見をご要望賜り、施設運営及び職員の資質向上に役立てている。	家族の方との面会も、歩いて行ける公園内での面会や窓越しでの面会、2か月に1回発行していた「ひまわり通信」を毎月の発行に変更する等、色々と工夫され家族との関係が途切れないように、取り組まれています。	コロナ禍の中で家族との面会について、事業所として今後はネット環境の強化に取り組み、家族・利用者に満足して頂ける体制作りを考えています。今後の取り組みに期待が持てます。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員が相談しやすいように、常に事務室を開放し、随時相談を受けている。又、気になる職員がいれば、こちらから声かけし、話しやすい環境整備に努めている。	職員の方が、何時でも管理者に相談できる環境が整っています。職員の利用者への支援に対するアイデアについても「やってみよう」と、すぐに取り上げて介護実践へと繋げており、働きやすい職場環境作りに取り組まれています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の日々の努力に対して、年2回の賞与に反映させ、意欲向上に努めている。さらに有休等がより取得しやすい等、職員にとっても働きやすい職場環境作りを努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月開催されているユニット会議や全体会議を通じて、職員の資質向上に努めている。又、外部研修を積極的に受講させる機会を確保している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括センター・近隣のグループホーム3社で城東地域グループホーム合同連絡会を開催している。又、城東圏域地域ネットワーク会議にも参加し、積極的に他事業者との交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	管理者が入居前には、本人及びご家族のカンファレンスを行い、要望等に耳を傾けている。又、職員に対しても各種会議の中で情報を開示し、安心して受け入れできる体制を整えている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が面会等で来所した時は、具体的に生活状況を説明すると共に、ご要望等も承り、施設に早く馴染んでもらうためにも役立っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まず、ご家族と話し合った上で支援方法を決定するが、本人の状況に応じ利用できる外部サービスや医療についても臨機応変に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の要望を聞きながら、より過ごしやすい環境となるよう支援している。又、可能であれば昼食・夕食を職員も一緒に食事するようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人の要望のみならず、ご家族から利用者の生活歴を伺い、より過ごしやすい環境となるよう支援すると共に、ご家族には、その都度生活状況の説明を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居時に今まで利用していた家具等を持ち込んでもらい、これまでの生活を継続してもらうための一助としている。又、利用者の中にはアルバムを持参して頂き、ご家族との関係が薄らぐ事がないようにしている。	知人・友達との交流(手紙・電話・携帯電話)の支援を、積極的に行っています。パソコンを使用し、自宅や馴染みの方の家を見たり関係性が途切れないように、出来る範囲での支援に取り組まれています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ユニット会議を通じて、利用者の個々の生活状況を把握し、職員間での情報共有を行っている。又、日常の会話において職員が積極的に参加し和やかな雰囲気作りを支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時には、「何かあればいつでも声をかけて下さい。」と伝え、退所後も気軽に相談できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃から利用者との会話を通じ、本人の意向や希望の把握に努めている。又、必要に応じて、ご家族から入所前の生活状況の情報提供を頂き支援に役立っている。	ソファをいたる所に設置することで、利用者の女子会の場となっています。職員の方も女子会に参加し、思いや意向の把握に努めています。そこで得た情報をもとに寄り添った支援へ取り組んでいます。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に、ご家族から、これまでの生活状況や既往歴等を伺い、ユニット会議等を通じて職員間の情報共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活状況については、業務日誌に記録し、生活状況の把握に努めている。又、特に注意する事等については、申し送りノートを通じて情報共有すると共に、日々のケアに役立っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリングだけではなく、毎月開催しているユニット会議（職員会議）においてカンファレンスを行い、職員一人一人の意見やアイデアを反映させた介護計画の作成に努めている。	本人・家族が望む暮らしを聴き取り、会議等で話し合い職員のアイデアを生かしながら、利用者の現状に即した介護計画の作成になるように、取り組まれています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録については、業務日誌に記録し、情報の共有化を図っている。又、職員は随時その日の利用者の状況に対して、どの様な対応（ケア）が必要か協議し実践している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人及びご家族の要望を日頃から把握し、そのニーズに対して、画一的なサービスの提供だけではなく、個別に対応できるように心がけ、既存サービスの枠や幅を広げられるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域での行事・活動への積極的な参加を心がけている。又、運営推進会議では、地域の行事の情報提供をお願いし、可能な限り参加するように努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在訪問診療を行う、クリニックは3カ所で、訪問看護ステーション、クリニックとの連携を密にし、医療支援を行っている。	近隣の医療法人との連携と、訪問診療を行う3カ所のクリニックとの連携を密に行い、毎週水曜日に訪問看護師による定期的な訪問時に、その都度バイタルや呼吸音等いつもと違う変化が見られた時には、早期対応が出来るように努めています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護は、週2回定期的に訪問し、介護職員より情報を得て主治医と連携している。又、緊急時においても、介護職員と訪問看護師が連携を密にし早期対応に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	訪問診療依頼先の医師と連携を密にし、入院が必要になった場合も、速やかな対応が可能となっている。又、当施設近隣の病院とも密に連携をとることができ、入院対応もスムーズに行う事が可能である。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の場合、早い段階で医療職との連携を図り、その都度、家族へ十分に説明し、情報を共有している。特に看取りの場合は、本人・家族の気持ちに寄り添い、医療関係者とともに支援している。	入所時に、本人・家族との話し合いの上、終末期を迎えた時点で医療職との十分な連携を取りながら、医師の指導のもと自室かホール内での看取りの支援を5年前から行っており、利用者や家族の希望があればその方の望む対応を全職員で情報共有して支援しています。	看取りに関わった職員のメンタル面での補い合いが、他の職員からもなされている事や、他の利用者が同じ部屋で終末期の利用者に声かけをしたり見守っているとの事で、事業所の温かい対応が他の利用者にも安心感をもって頂けると思います。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルの整備や緊急連絡網の徹底を図り、スムーズな対応ができるよう実践している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に職員研修において災害別の重度者の搬送方法や避難経路について職員全員で確認する。運営推進会議にて災害時の施設の対策体制状況を開示し、自治会と協力体制を構築する。	災害時の利用者の避難には、安全面を重視し地震・火災等の夜間発生時を想定して職員全員での避難訓練を定期的に行っています。素早い対応を図るためWi-Fi環境の整備等が、施設の対策強化の課題としてあります。	事業所の構造は、地震や津波等には十分な安全性が確保できていると思います。自治会への協力体制の要請も早期の取り組みを希望します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に対する言葉使いや接遇に配慮するだけでなく、トイレや入浴時には、羞恥心に配慮した処遇に努めている。	利用者一人ひとりへの声かけの仕方や呼び名も本人が名前ではなく、「おばあちゃん」と呼んでほしいと希望する方もおられるのでそのように対応しています。新人職員からの質問や支援についての疑問を指導する中で、利用者への細かい点のサポートへの気付きもあり、全職員で情報共有しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	全てにおいて、本人の希望や意志を尊重している。自分の意志や希望が表現できない利用者には、職員が代弁者になり、自己決定できるよう働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本人の生活リズムを第一に、無理強いないようなケアをしている。又、食事についても時間をかけており、その人リズムで食されるよう心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時と就寝時を判別して頂くために、必ず着替えを行っている。又、女性の利用者については、化粧等も要望があれば、職員が対応し、おしゃれを楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、毎食手作りしており、利用者の嗜好に合わせてメニューを作成している。食事の準備や片づけは、全員ではないが、できる利用者と一緒にしている。	食事は全食、事業所内で手作りしており好みのメニューも言ってもらえたらできるだけ希望に沿えるようにしています。ハンバーグ作りやジャンクフードも一緒に手作りして、見て楽しみ作って楽しむ事が出来ています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量は、必ず記録し、状態の把握に努めている。変化がある場合は、評価・検証している。又、医療機関とも情報を共有し、指示を受けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後リビング内の洗面台にて口腔ケアを行っている。口腔内の異常、義歯の状態等不具合があれば、家族へ承諾をとり、訪問歯科医の治療を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の排泄リズムを把握しながらトイレの声かけや、オムツ交換を行うと共に、排泄時には本人の羞恥心に配慮した支援を行っている。又、可能な限りトイレ・ポータブルトイレでの排泄に努めている。	利用者への排泄支援は、声かけや誘導にもその方のパターンをよく把握した上で対応するようにしています。リハビリパンツやポータブルトイレの使用に移行する利用者もおられる事で、排泄に関する自立支援に職員全体での情報共有を図り取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日、排便状況を記録している。なるべく自然な排便を促すため、規則正しい食事や繊維質を多く摂ったり、体を動かしたりしている。それでも便秘が続く場合は、主治医へ相談し、薬で排便コントロールしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望により入浴時間の変更は可能となっている。入浴は週2回実施しており、入浴が困難な場合は、清拭を行い身体を清潔に保っている。	今は入浴拒否の利用者はあまり見られませんが、着替えの提案や決まった時間ではない午後からや、寝る前を希望する利用者にはそのように支援しています。職員と一緒に入浴時間を楽しむ会話も聞かれています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は固定しておらず、利用者が眠くなった床についてもらっている。又、就寝時は必ず着替えを行い、日中と夜間が区別できるよう努力している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理は介護職員が中心となり行っている。薬は調剤薬局から持ってきてもらっており、服薬時は必ず複数の目で確認し、服薬後も残薬がないかを確認を行い適切な対応に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	集団によるレクや活動だけではなく、個別に興味や好みを把握し、その人に合った生活を送って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体力低下に伴い外出の機会は減少しているが、節目節目(正月や春)には、屋外に散歩し、四季折々の景色を楽しんでいる。	今の時期、外出の機会は大幅に減少しており以前のように家族会でのイベントや歌・地域の季節の催事を窓越しから見る事も出来ず、早く以前のような外出が出来る様にバランスポールや体操などを日常的に行いながら足腰が弱らないように支援しています。	コロナ禍、外出不可の現状では出来ることは限られますが、閉塞感を少しでも緩和するため不活発の予防に、今行っている食事前や午後のリラックスタイムジャンケン体操やロパク運動を皆で楽しんでいただける様に、支援していくことも喜びが増すと思いません。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了解のもと、預かり金を管理し、利用者の要望に応じ、又、必要となる物は、随時買物に行き支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により、電話をかけたり、本人が書いた手紙を代わりに郵送したりし、支援している。又、毎月発行している「ひまわり通信」で日々の生活状況を家族へ報告している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に利用者の動線・ADLを考慮し、環境整備している。又、季節を感じさせる飾り等で、四季を体感してもらっている。	利用者一人ひとりの好きな事をいつでもできるように、集まっておしゃべりを楽しみ、窓際のソファでは女子会と言われる女性の利用者が毎日、日向ぼっこと会話を楽しんでいきます。他の利用者も、ホール内にかざる絵や、組み紐で作るミサンガやドラえもんの置物を共同作業で作って楽しんでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の配置は、ADL・利用者同士の向き不向き等を熟慮し、決定している。又、ソファを配置し、くつろげる空間を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な限り今まで自宅で使用していた家具等を持ち込んで頂いている。又、居室の壁には職員の手作りの色紙や利用者の家族の写真を飾り、居心地よく生活できるよう工夫を凝らしている。	転倒予防と歩行不自由な利用者の安全な居室作りの為、動線の工夫や馴染みのものとして持ち込んだ家具等の配置に充分注意して、居心地よく過ごして頂けるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の動線に合わせ、ソファ等設置している。又、トイレの案内は、漢字で表記する等し、自立した生活が送れるように工夫している。		